

第 10 期羽村市環境審議会第 2 回会議 会議録	
日 時	令和 3 年 3 月 23 日（火曜日）午後 2 時～午後 3 時 45 分
会 場	東庁舎 2 階 203～204 会議室
出席者	<p>【委員】福嶋司会長、大崎玄副会長、谷口宏乃、松崎博満、金子義行、斉藤興治、山下敬一、西谷隆亘、名取雄太</p> <p>【事務局】産業環境部長、環境保全課長、環境保全係長、環境保全係主査、生活環境課生活環境係長</p>
欠席者	【委員】加藤康一
傍聴者	なし
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員紹介 3 会長挨拶 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 羽村市環境とみどりの基本計画の進捗状況等について (2) 第二次羽村市地球温暖化対策地域推進計画の策定について 5 その他 6 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・第 10 期羽村市環境審議会委員名簿 ・羽村市環境報告書（案）2019（令和元年度）【資料 1】 ・羽村市地球温暖化対策地域推進計画の改定について【資料 2】
会議の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員紹介 名簿に基づき事務局から委員を紹介 3 会長挨拶 4 議事（傍聴人なし） 議事進行：会長 <ol style="list-style-type: none"> (1) 羽村市環境とみどりの基本計画の進捗状況等について 資料 1 に基づき、事務局から令和元年度の進捗状況等について説明 （委員）報告書の中に、スマートという表現が多く使われているが、どのような意味なのか。 （事務局）スマートは、賢いという意味で使用している。 （委員）スマートなまちとの表現が抽象的で分かりづらい。 （事務局）平成 25 年度に策定した、環境とみどりの基本計画のキーワードとして掲げており、環境行動を推進する上で、生活の質を高めながら、賢い行動をしていくという意味で用いている。 （会長）以前、スマートの表現については、分かりづらいと議論になった経緯があった。今後は分かりやすい表現やしっきりとした定義をするなどが必要と考える。

(事務局) 次期の計画策定の際には、分かりやすい表現に努めていく。

(委員) 4 ページの市域の二酸化炭素排出量の推移と削減の目標においては、2012年度(平成24年度)の数値が用いられているが、資料2については、2014年度(平成26年度)の数値を記載しているが何故なのか。

(事務局) 確認して修正等対応する。

(委員) 48 ページ右下の多摩産の木材利用の記載内容について、CO₂の吸収に貢献するといった記載があるほうが、一般市民の方にもわかりやすいのではないかと。

(事務局) 指摘のとおり追加修正する。

(委員) 50 ページ中段のみどり率のグラフの平成30年度の数値と、説明文の数値が異なるがどちらが正しいのか。

(事務局) グラフの数値は、市が平成18年度に実施した緑被率調査によるものであり、平成18年度以降緑被率調査を実施していないため、当時の数値を使用し続けているものである。説明文の数値は、あくまでも参考として、東京都が5年毎に実施しているみどり率調査の値を掲載したものである。今後、東京都のみどり率調査の数値への移行について検討する。

(会長) 今後、第三者が見て分かりやすいよう整理してほしい。

(事務局) 指摘のとおり、誰が見ても分かりやすいよう改善に努める。

(委員) 同じく50ページ中断のグラフの赤い線が何を示すのか不明である。

(事務局) 管理指標の達成水準との記載が漏れているため修正する。

(委員) 24 ページの航空機騒音について、オスプレイの飛行や、夜間の飛行がかなりうるさく感じるが、環境基準の超過がないのは何故なのか。

(事務局) 航空機騒音については、個々の単発騒音レベルに時間帯ごとに重みづけを行い、1日の騒音エネルギーを加算し、時間平均を算出し評価しているためである。

(委員) 理解が難しいが、例えば騒音の苦情などは、どう判断するのか。

(事務局) 一般的に騒音の苦情については、継続して発生する場合を対象としており、単発のものについては、時間平均で評価するため、規制基準を超過することがないのが現状である。

(会長) 市民感覚からすると基準は別として、大きな騒音が発生した場合の現状について、記述をしておくことが必要ではないか。

(事務局) 記述内容について、検討する。

(会長) 33 ページの苦情・相談について、説明を聞けば理解できるが、第三者が見た場合は、理解できないと思うため、具体的な内容を記載できないか。

(事務局) 具体的な内容の記載について、検討する。

(会長) 51 ページについて、クビアカツヤカミキリの生息確認の記述があるが、他にもナラの木を枯らすカシノナガクイムシの被害が各地で確認されているため、今後のどのように対応していくか、明記する必要があるのではないかと。

(事務局) 確認し記載を検討する。

(2) 第二次羽村市地球温暖化対策地域推進計画の策定について
資料2に基づき、事務局から内容説明

(委員) 資料について、西暦と和暦が併記されており分かりづらいため、ひとつに統一したほうがいいのではないかと。

(会長) 西暦で統一し、必要に応じて和暦を使用するのが分かりやすいのではないかと。

(事務局) 承知した。

(委員) 7 ページの市域の二酸化炭素排出量部門別推移の中の、民生部門の業務の平成 28 年、平成 29 年の排出量が大幅に増加しているが、その要因は何か。

(事務局) 手元に資料がないため、詳細は不明であるが、主に事業所などが該当するため、好景気によるものと捉えている。

(委員) 産業部門の製造業は減少しているが。

(事務局) 製造業については、設備投資による、再エネ設備の導入や、省エネ機器への更新が進んだものと理解している。いずれにしても確認し、後日回答する。

(委員) 最近の考え方として、この機械を使用すると CO₂ が減るとか、この方法であれば、CO₂ が減るといったことだけではなく、製造段階から廃棄までの環境負荷を捉える考えがあるが、今回の計画策定には、そのような考えを取り入れるのか。

(事務局) 所謂ライフサイクル CO₂ の考え方について、どこまで正確なデータが入手できるのかという問題もある。そういった考えを反映できれば、よりよい計画となるため、研究させていただく。

(委員) 計画策定のスケジュールについては、本日を含め 5 回開催するとの理解でいいのか。

(事務局) 現時点においては、その予定である。次回、現状において何も施策を講じない場合の CO₂ 排出量の将来推計や、東京都のように新たな施策を講じた場合の CO₂ 排出量予測などを示す予定である。また、国において 2050 年カーボンニュートラルに向けた新たな目標値が発表されると思うため、併せて提示したいと考えている。

(会長) 国、都、市が並列ではなく、市のアイデンティティをどう生かすかが重要であるため、そういった観点で考えてほしい。

(委員) 市の施策でコンポストの助成があるが、有効に活用していけば、生ごみ焼却に伴う CO₂ の削減につながるのではないかと。

(会長) 羽村市では、どのくらいコンポストが普及しているのか。

(事務局) 助成件数は、令和元年度が 9 件、令和 2 年度が 2 件であるが、電気を使わないものが助成対象となっているため、総数については把握していない。

(委員) 屋上緑化の助成も継続しているのか。台風の時などは、危険ではないのか。

(事務局) 引続き実施している。様々な緑化の方法があると思うため、安全を考慮した方法で実施すれば問題はないと考える。

(委員) 今回の資料について、国や都の動向がよくまとめられているが、羽村市の現状分析が少ないように感じた。今後の方向性を決定していくうえで、重要な要素であるため、今後の作業において重視してほしい。

(事務局) 羽村バイオガス発電所が完成し、昨年 11 月に操業を開始した。第 8 期の環境審議会において、委員の皆さんには、工場設置認可について、丁寧な議論をいただくとともに、静岡県牧之原市の同様の施設の視察の実施を経て、市として認可をしたものである。この施設が食品廃棄物を燃料として、稼働を開始した段階である。一般廃棄物の受け入れについても、現在、東京都や事業者と協議を進めている状況である。生ごみ処理については、現在、西多摩衛生組合において、すべて焼却処分を行っているが、これをバイオガス発電燃料として利用していくことで、焼却する分を減らしていくことが、大きな解決策であると捉えている。一般廃棄物についても、受け入れを進め、焼却による温室効果ガスの発生を抑制していく取組みを進めていくことが必要であると考えている。産業都市を掲げる羽村市においては、その特性から CO₂ 排出量の 50%以上が産業部門からのものであることは、まぎれもない事実であり、この部門からの排出をいかに抑えていくかということが、大きな課題である。各企業においても様々な取組みを考えているため、よく聞き取りをしたうえで、向こう 10 年間の第二次計画を策定していく。委員の皆さんとともに、多くの議論を交わし、文字で書くだけでなく実効性のある計画を 1 年かけて作っていきたい。そのための資料提供に努めていくので、皆さんからも、審議会の場に限らず電話やメールでの忌憚ない意見を願う。

(委員) 現行の計画については、CO₂ 削減についてだけしか述べられていないため、CO₂ の吸収について記載が必要ではないか。また、市民や事業者に関心を持ってもらえるような計画にしていかなければならないと思う。そのための啓発が重要である。

(事務局) 国のグリーン成長戦略において、森林の CO₂ の吸収についても、取り入れているため、市の計画にどこまで入れられるか、研究・検討する。

(会長) 理解しやすい計画にする必要がある。全体の流れをつかんで進めてほしい。

5 その他

特になし

6 閉会 午後 3 時 45 分終了